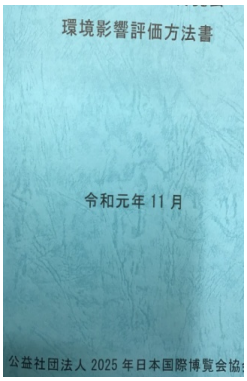
大阪万博の環境アセスメント「方法書」を読む

大阪万博の環境アセスメントが本格的に始まった。2025 年日本国際博覧会「環境影響評価方法書」縦覧が 11 月 22 日から行われ、意見書提出は来年 1 月 6 日締切である。方法書はネットから入手できるが、質問もあったので大阪市環境局に出向いて縦覧することにした。



方法書は全体で 109 ページあり、次の 6 章で構成されている。
第 1 章 事業計画　第 2 章 地域の概況　第 3 章 事業計画に反映した環境配慮の内容　第 4 章 環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法　第 5 章 環境の保全及び創造の考え方　第 6 章 特定届出の種類

縦覧して気になった点を順に書いておく。環境保護団体など多くの人たちから学びながら「意見書」をまとめていきたい。

・開催場所の選定の経緯について（2 ページ）
会場を夢洲に選定した理由として、「埋立地を活用することによる自然への負荷が少ない」などと述べている。当初、夢洲は候補地として挙がっていなかったが、何らかの理由で候補地に急浮上した。大阪湾の埋め立て中の人工島を選定した理由について、他の候補地との比較考量を含め、より明確にすべきである。夢洲特有の災害リスクが考慮されないまま選定されたようであり、この点は方法書にとっても重要な問題である。

・関連した来場手段、車両の種類と走行ルートなど（9.12.19 ページ）
夢洲には現在、大阪湾有数の港湾機能がある。大型車両混入率は夢洲南では 69.4%にのぼる。夢洲では万博予定地に隣接して、コンテナターミナルが稼働しており、同時期に IR 開業も計画されている。工事期間と開催時期などに分け、夢洲のアクセス、動線計画とその環境影響が重層的に調査されなくてはならない。

・自然環境の概要について(49 ページ～)
夢洲は地質として人口の造成地、生物多様性ホットスポット A ランクなどと記されている。こうした夢洲特有の自然環境が、環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法にどのように反映されているかが重要である。環境保護団体の調査と知見をもとにして、夢洲特有の問題、夢洲の自然環境特性を明らかにする環境影響調査を求めていきたい。

・事業計画に反映した環境配慮(77 ページ～)
通り一遍の環境影響評価だけでなく、国際博覧会という大規模イベント、夢洲という会場予定地特有の問題を明記する必要がある。ゴミ処分地として造成されてきた経緯を踏まえ、夢洲の地質や土壌を正確に調査すること。南海トラフ巨大地震など災害リスクが懸念されており、安全面からの調査が欠かせない。また、万博会場とコンテナターミナル・IR との関係について、空間軸と時間軸からの多面的な影響調査を求めたい。

（2019 年 12 月 5 日）